

館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八―九
 Tel (03) 33264186 三六三八
 Fax (03) 33264186 三六三六
<http://www.tateyamajuku.com/>
 館山塾

contents

予定表・冬期講習………	1面	冬期講習時間割………	2面
受験シーズンを前に………	3面	チエンストア・パラドックス………	4面
高校合格者の声………	5面		

十二月～二月の予定

中学生クラス

11月29日(日)……………	第五回中三テスト演習
12月13日(日)……………	平常講義終了
12月14日(月)～17日(木)………	中三オプシヨン講座
12月18日(金)……………	休講
12月19日(土)～22日(火)………	中三オプシヨン講座
12月23日(水)……………	冬期講習
12月24日(木)～25日(金)………	休講
12月26日(土)～29日(火)………	冬期講習
12月30日(水)～31日(木)………	中三正月特訓前半
1月1日(金)……………	休講
1月2日(土)～3日(日)……………	中三正月特訓後半
1月4日(月)～6日(水)……………	冬期講習補講期間
1月7日(木)……………	中三オプシヨン講座
1月8日(金)……………	冬期講習総合試験
1月9日(土)……………	休講
1月10日(日)……………	平常講義開始
1月17日(日)……………	テスト演習個別指導
1月24日(日)……………	テスト演習個別指導
2月7日(日)……………	進級試験(除中三)
2月19日(金)……………	中三平常講義終了
2月26日(金)……………	中一・二平常講義終了

お知らせ

★中三正月特訓講座の開設

直前期カリキュラムの一環として、全員参加を原則としています。入試演習のタイプ、選択講座を各自が選択する形式です。選択講座の詳細は、教室でお渡しする申込用紙を参照して下さい。

★高一への進級に際して

中三生は、来年度、優先的に高一クラスへの進級資格があります。進級試験は、高校入試日程終了後に受験して戴きます。別途申込は必要ありません。

★平常講義の終了日

中一・二は2月26日、中三は2月19日となります。

中学生保護者面談

既にお知らせ致しました通り、中学生の個人面談は、10月26日～11月1日の休講期間中に実施致しました。なお、中三の受験相談は随時行いますので、ご希望になる場合は、直接、担当講師までご連絡下さい。

中三テスト演習

九月より、中学三年生を対象に、入試総合特訓のための、テスト演習を実施しています。

期日 11月29日(日)：第5回

個人成績票に関して

- 第3回よりタイプ別に合格可能性を表示しています。
- 80%以上＝確実
- 60%＝合格圏
- 30%＝可能性はあるがもう一歩、といった数字です。

☆科目毎の判定

・科目毎の判定(A・B)はそれぞれの科目の絶対評価を示し、棒グラフは科目の偏差値で、受験者内での位置を示します。苦手科目を的確に把握し、その克服に努めましょう。

※テスト演習総まとめの個別指導

期日 1月10日(日)・17日(日)・24日(日)
 内容 直前期の弱点補強、面接練習、勉強会などを行います。詳細は、担当講師から通知します。

△▼△▼ 冬期講習のお知らせ ▲▼▲▼

講習 12月23日(水)・12月26日(土)～29日(火)

補講 1月4日(月)～6日(水)

総合試験 1月7日(木)

科目 中一・二：英数国三科目、5日間、80分授業 } 十各学年 補講3日間
 中三：英数国(理社選択)、5日間、80分授業

★中一・二は、一部平常とは異なるクラス編成となります。各自のクラス及び補講の教室割等は、後日配布されるクラス決定通知書を参照して下さい。

★総合試験の時間割は講習時間帯と異なりますので、後日配布の受験票で確認して下さい。

★講習終了後、平常講義は、翌々日の1月9日(土)から始まります(1月8日(金)は休講です)。

※中三のみ、希望制のオプション講座があります。オプション講座の詳細は、同封の申込用紙を参照して下さい。

中三正月特訓のお知らせ

~~~~~

冬休みの期間中、講習期間とは別に、受験生を対象とした特訓講座を開設します。例年、この時期の集中学習によって大きな成果が上がっています。正月特訓は年間カリキュラムの一環として、全員参加を原則としています。

期間 12月30日(水)～31日(木)及び1月2日(土)～3日(日)の四日間

時間 午前9時20分～午後3時50分(昼休み12時10分～1時)

内容 英数国のタイプ別入試演習、及び5教科からの選択講座。

選択科目・講座申込

教科数、演習タイプ、選択講座が、各自の志望に応じて自由に選択できます。教室でお渡ししている申込用紙に必要事項を記入の上、申し込んで下さい。平常、理社を受講していない諸君も、5教科選択をすることができます。

冬期特別講習時間割 中学生 【12/23・12/26～29】

|             | 12/23・12/26～29 |                    |                    |
|-------------|----------------|--------------------|--------------------|
| 9:20～10:40  | 中1 数学 B        | 中2 英語 B            | 中3 国語 A<br>中3 英語 B |
| 10:50～12:10 | 中1 英語 B        | 中2 英語 A<br>中2 数学 B | 中3 国語 A<br>中3 数学 B |
| 13:00～14:20 | 中1 国語 B        | 中2 数学 A<br>中2 国語 B | 中3 数学 A<br>中3 英語 B |
| 14:30～15:50 | 中1 数学 A        | 中2 国語 A            | 中3 社会              |
| 16:00～17:20 | 中1 英語 A        |                    | 中3 理科              |
| 17:40～19:00 | 中1 国語 A        |                    |                    |

▲▽ 受験シーズンを前に ▽▲

胡子俊英

大学のAO入試の二次試験で「外国人看護師・介護士を受け入れる政策に対する意見を述べよ」という課題を生徒と一緒に調べていて、高齢者介護の現場の人手不足解消には必要だという意見と、介護の労働条件が悪いから人手不足になっているのに、その点の解決を図らずに賃金が安くて済む外国人労働者に頼るという対策は本末転倒だ、という反対意見があることがわかりました。ところが、賃金や労働時間といった条件を整備するだけで人材が集まるかという、決してそう単純ではなく、介護する方もされる方も、お互い早く死ねばいいと思っただけで済むのが今のあり方そのものが不幸であり、誰もが老いて死んでいかねばならない現実を直視し、高齢者の介護という仕事そのものに対する見方を変えていく必要があるということまで考えが広がっていきました。社会的な政策はまず経済的な問題が表にありますが、その根にも人の死生観に関わる問題が潜んでいること、そして現代社会は、人の死生観を深く考えさせようとはしない方向に流れている気がしてなりません。

AOや推薦入試は、普通の高校生が考えない課題を与えて考えさせてくれるので、こうした制度の教育効果は抜群だと思うのですが、現実には一般入試では学力が届かない生徒の受け皿になっているだけで、その教育効果を評価する声はほとんど聞かれません。

大学二年生なる息子（館山塾に三年間在籍し、東大文科Ⅱ類に現役合格しました。詳細は昨年の塾報に連載しましたので、館山塾のホームページのバックナンバーでご覧戴けます）が、経済学は勉強すればするほどつまらないと言って、結局教育学部へ進学することにしたようです。息子が言うには、東大は確かに点数を取る能力に長けている学生は多いが、人間的魅力に乏しいことを嘆いています。それは自分自身に対する反省でもあるのですが、息子は音楽に没頭することでバランスを取ろうとしているようです。

ところが、所属しているオーケストラでも、多くはブルジョワでその功利的な価値観が彼らの音に現れているが、その点を指摘しても彼らは理解してくれない、と嘆いています。技術は訓練すれば向上しても、そうした人間の本性のようなものはどんなに訓練しても音に出ると言うのです。

これに対しては、ラーメン屋でバイトをしている息子のことから、そのブルジョワ嫌いが偏見となって、音を歪んだものに聞かせている可能性も否定できないのですが、経済一辺倒の現代社会と、それに順応しようとする多くの若者達に反発しようとする気持ちは理解できます。

何も考えずに勉強だけする時期も若い頃には必要です。しかし、どこかでじっくりと死生観を問う時間も必要です。時間内に正解を導く反射神経的能力ばかりに長けた若者を育ててはいないか、というのが私の常に自問していることです。合格至上主義に陥りがちな塾の指導ではあるのですが、それだけではない何かを生徒達に伝える指導を模索する日々は今日も続きます。

▲▽ チェーンストア・パラドックス ▼▲

熊倉幹男

次の問題は、今年の慶應義塾大学商学部の論文テストに出題された4問のうちの1問です。ゲーム理論という、最近になって研究が進められている数学分野がありますが、そのトレーニング問題の一つです。ゲーム理論事態は難解なものですが、それが次第に洗練され、「ゲーム理論と経済行動」を著した二人の学者は1994年にノーベル経済学賞を受賞しました。それでは、ゲーム理論とやらをちょっとのぞいてみましょう。

【問題】 次の文章を読み、空欄にあてはまる数、言葉、文章を答えよ。

大手チェーンストアが、あちこちの町にすでに店を出しています。これに対抗して、零細小売商が、それぞれの町に同じ商品を扱う店を新しく出そうかと思案している場面を考えます。

零細小売商は、「参入する」か「参入しない」かを選びます。つまり、新しく店を出すか、出さないかということです。店を出さなければ利益は得られませんが、店を出せば利益が得られる可能性があります。しかし、零細小売商が仮に参入したとすれば、つぎに、大手チェーンストアが選ぶのは、「協調する」か「攻撃する」です。大手チェーンストアが参入してきた零細小売商と仲良くすれば、参入しなかった場合の利益100のうち、25は零細小売商に取られますが、75は維持できるものとします。一方、値下げ競争等を仕掛けて零細小売商を攻撃すれば、競争が泥沼化して、両者とも利益が-25に落ちて、損してしまうものとします。このような仮定のもとで、零細小売商はどう決断し、大手チェーンストアはどう反応するでしょうか。

という問題です。現実でありそうな話ですね。これをゲーム理論で解決していこうということです。この後は誘導形式になっており、特に専門的な知識も必要ありませんから、考えてみましょう。

零細小売商は、以下のように先読みするでしょう。まず、仮に自分が参入したとしたら、大手チェーンストアは自分の利益を考えて「攻撃する」より「協調する」を選ぶでしょうし、そうなれば、自分の利益は、「参入する」という戦略を選ぶと「ア」になり、「参入しない」という戦略を選ぶと「イ」になるはずですが、このような先読みの結果、零細小売商は「ウ」という戦略を選ぶでしょうし、それを受けて大手チェーンストアは「エ」という戦略を選ぶでしょう。

わかったでしょうか。初めの文章の内容が理解出来れば答えられると思います。答えは、ア.25、イ.0、ウ.参入する、エ.協調する、です。さて、このような考えのもと、零細小売商は次々と参入していけば利益は上がり、大手チェーンストアの利益が損なわれますが、実際にそのようなことが起こるのでしょうか。まずないでしょうね。大手チェーンストアは黙っている訳はなく、損失覚悟で攻撃するのは間違いないでしょう。損失するのに、なぜ攻撃するのか？、意地？、プライド？、いえいえ、最大利益のためなのです。だから、この理論は「チェーンストア・パラドックス」と言われます。では、問題を続けます。

これと同じ選択が、1つの町にかぎらず全ての町で行われれば、大手チェーンストアは利益を大きく損なってしまいます。そこで、大手チェーンストアが零細小売商にやられない方法を考えてみます。結論から言うと、大手チェーンストアは、零細小売商が「参入する」か「参入しない」かを選ぶ前に、「オ」と宣言しておくことと良さそうです。…

ここまでのこの問題の一区切りです。この後、それでも零細小売商が参入した場合どうするか、また共存する

ためにはどのような方法があるかということを考える問題となっています。

ゲーム理論の分析は、いくつかの主体(この場合は大手チェーンストアと零細小売商)がそれぞれの目的を持ち、お互いに影響しあう状況のときに有効で、最適な戦略を決定することから経済活動にも用いられています。今回の話はその一部なのですが、おもしろく感じましたでしょうか。これで少しでも経済に興味を持ってくれるとうれしいですね。さらに、経済学、経営学にも数学の理論が必要だということを知って、今以上に数学を一生懸命勉強してくれれば、もっとうれしいです。

で、最後のオ.の答えは、「参入すれば攻撃する」です。いわゆる、脅しっていうやつですね。

◆◇△◆ 高校合格者の声 ◆◇△◆

卒業生からのアドバイス

堀井丈太郎君(神田一橋中) 都立戸山高校・東洋高

校合格

清水脩平君(日本橋中)

本郷高校・豊島学園高  
校合格

伊左治玲良君(文京六中)

都立広尾高校・郁文館  
グローバル高校合格

守屋統君(神田一橋中)

都立深川高校・錦城学  
園高校合格

深野滯さん(牛込第三中)

城西大学城西高校・杉  
並学院高校合格

中3の冬休み

・カゼをひかないように気をつけた。(堀井君)

・過去問をやる。(清水君)

・三教科の総まとめをする。(伊左治君)

・過去問を解く。(守屋君)

・三年間の勉強を完璧にする。(深野さん)

中3の直前期

・過去問をやり続け、ぎりぎり一周できた。(堀井君)

・体調を整える。(清水君)

・理社を集中的にやる。過去問を解く。(伊左治君)

・過去問を解いて自信をつける。(守屋君)

・入試問題をできるだけたくさんやる。(深野さん)

試験当日

・戸山は意外と寒かった。開始時間が遅れることもあるので、対策が必要。(堀井君)

・カイロは持っていった方がよいです。(清水君)

・まわりを気にせず、自分のことを信じるのが一番。Do Your Best。(守屋君)

・試験会場が静かで、1日目はかえって集中できなかった。何校も受けることでその場の空気にだんだん慣れ、最後の都立のときには一番集中して試験を受けることができた。筆箱のなかに「館山鉛筆」がいるだけで安心できた。(深野さん)

面接情報

・テストの出来、部活の予定などを聞かれた。となりの人は特進クラスを希望していたようで、「もし特進になって、部活との両立が困難だとしたらどちらをとりますか、と聞かれていた。(その人は「勉強を優先します」と答えていた。)(堀井君)

・質問には冷静に答えよう。相手の目を見て！(守屋君)

・聞かれたことは…

「勉強の合間にやっていることは何ですか？」

「好きな教科は何ですか？」

「部活は何をやっていましたか？」

「高校に入って一番やりたいことは何ですか？」

「中学で一番がんばったことは何ですか？」

「中学で一番思い出に残っていることは？」(深野さん)